

外地寄港中における教育交流活動について —OAHU 及び KAUAI で実施した交流の紹介—

○中川 浩一郎* 岡 あや乃** 長渕 光司*** 奥 知樹****

1. はじめに

これまで練習船では、遠洋航海において航海中の実習訓練に加え、外地停泊中にバス見学や、文化的な交流行事への参加、また、一般公開等を実施してきた。これらは、実習生の異文化交流や、外国語によるコミュニケーション能力の向上の重要な機会の一つとなっていた。しかしながら近年、諸事情によりこれらの機会を十分にとることが困難になっている。これらの諸事情としては、実習生の経済的・金銭的問題、職員の休暇や配乗の問題等が挙げられる。

平成 27 年度及び 28 年度の日本丸遠洋航海の寄港地において、小規模ではあるが寄港地の教育関連機関、団体と連携して教育的、あるいは文化的な交流活動を計画し、実施したので紹介する。

2. 連携団体等について

連携して計画、実施した関連団体を以下に挙げる。いずれも米国ハワイ州にある団体である。

① Polynesian Voyaging Society (以下 PVS という)

Oahu 島の Sand Island にある、Honolulu Community College (HCC) の Marine Education & Training Center (METC) を本拠地とし、Hawaii 州宝第一号でもある Voyaging Canoe “HOKULE’A” を所有し、海洋教育や文化活動、海洋環境保護啓蒙活動を実施している。

② Kauai Community College (KCC)

Kauai 島にあり、University of HAWAII (UH) の一つである。5 つの学科を有し、およそ 1300 人の学生が在学しており、職員は 120 名である。日本の商船系高専を始めとして、現在は年間 9 種類の国際交流プログラムを実施している。

③ Na Ka Lai Wa’a of KAUAI

HAWAII では、40 年前に建造され、文化復興のシンボルになっている航海カヌー “HOKULE’A” のタヒチへの大航海の後、各島において航海カヌーが建造され、主に教育、文化活動の為に航海を行っている。本団体は、一

昨年 MAUI 島のカヌーに続き、昨年に進水した KAUAI の航海カヌー “NAMAHOE” を建造し、今後航海活動を行う NPO 法人である。“NAMAHOE” の建造には、ほぼ 20 年という歳月がかけられた。KCC と商船系高等専門学校が行っている国際交流プログラムにおいても、この建造の課程が盛り込まれており、沢山の日本の学生が関わってきた。また、富山高専では、プログラムに参加した学生が帰国後、建造中のカヌーの模型を制作して水槽試験を実施し、その発表結果をこの NPO 法人に提出した。

3. 実施内容

① Na KELAMOKU (NIPPON MARU & HAWAII LOA) PVS の YOUTH TEAM として活動する Na KELAMOKU のメンバーと交流活動を行った。

平成 27 年度遠洋航海では、それぞれが学んでいる伝統的な古代航海術と近代航海術をシェアし合うことを目的として、HONOLULU 港停泊中に実施した。Na KELAMOKU 及び PVS のメンバーが訪船し、予め準備したルートで本船からの交流会参加実習生 17 名が船内案内をしながら、本船の実習内容の説明を行った。また、参加実習生が作成した本船の往航実習風景の映像を放映し、質疑応答の場を設けた。その後、PVS メンバーと共に Sand Island の METC に移動し、航海カヌー “HAWAII LOA” 上にて、Na KELAMOKU のメンバーによるカヌーや航海の説明を受けた。

平成 28 年度遠洋航海においては、Na KELAMOKU メンバーの本船見学のみを実施し、その後、船外で夕食会を行った。

② Kauai Community College との交流会

地域教育機関への貢献と機関科実習生のモチベーション向上を目的に、平成 28 年度遠洋航海の NAWILIWILI 港停泊中に実施した。KCC の工学系の学生と教員が、本船の機関室を中心に見学を行った。これには機関科実習生 15 名が、4 グループに分かれて、予め決めたテーマについて往航で準備を

* 准教授 実習訓練課 **** 教授 予備船員
** 助教 予備船員
*** 准教授 大成丸

行い、各所でプレゼンテーションを実施した。



写真1 Na KELAMOKU との交流

③ NAWILIWILI 港における住民及び HONOLULU 港における帆船“MAKANI OLU”のクルーと訓練生に対する船内案内との交流

寄港要請関係者や地域住民に対する貢献、実習生のモチベーション向上を目的に、NAWILIWILI 港では地域住民に、HONOLULU 港では帆船“MAKANI OLU”のクルーと、KANEHUNAMOKU Voyaging Academy の指導員及び訓練生を対象に船内案内を実施した。

安全確保と、可能な限りきめ細かい案内により密接に交流をさせることを念頭に、見学者を少人数のグループに分けて、担当者を配置して実施した。



写真2 KANEHUNAMOKU Voyaging Academy との交流



写真3 NAMAHOE との交流

④ NAMAHOE との交流

PVS と連携して航海カヌー“NAMAHOE”を所有して教育文化活動を行っている、Na Ka Lai Wa'a of KAUAI と、①と同様の交流活動を実施した。

また、この団体は全国の商船系高等専門学校がハワイ大学と教育協定(MOU)を締結し、共同開発した海外教育プログラム“Ike Na Kahua”の中核を担う舞台となっている。このプログラムは今年度で10期生を迎える。

4. 実施結果

平成27年度については、HONOLULU 港のみの寄港であったが、試行的にPVSのYOUTH TEAMであるNa KELAMOKU との交流プログラムを計画、実施した。これについては、参加者は職員5名、実習生17名であった。

平成28年度は、HONOLULU 港に加えて急遽、NAWILIWILI 港の寄港が決定したため、前年度の試行を活かし、遠洋航海出港前から実施可能な交流プログラムの検討を開始、実施した。実施した交流プログラムに参加した実習生及び訪船した現地の見学者数を表1に示す。

前年度に引き続きNa KELAMOKU との交流を実施したが、現地の学校行事や世界一周航海中の“HOKULE'A”のパナマ運河通過と重なり、今年度のNa KELAMOKU 側の参加者は4名であった。本船側は職員2名と実習生5名の参加となった。

NAWILIWILI 港における住民との交流を目的とした船内案内は、2日間で110名の実習生が対応し、計396の方が乗船された。同日に実施されたKCCの工学系学科との交流参加者は、KCC側8名、本船側は職員1名、実習生15名が参加した。

表1 交流プログラム実施結果

No.	交流プログラム	実習生参加人数	現地の本船見学者数
①	Na KELAMOKUのメンバーに対する船内案内	平成27年度 17名(他、職員5名) 平成28年度 5名(他、職員2名)	平成27年度 10名 平成28年度 4名
②	KCC自動車工学部の学生に対する船内案内	15名(機関科実習生。他、職員1名)	8名
③	ナウリウリ港における住民に対する船内案内	1日目:56名 2日目:54名	1日目:157名 2日目:239名
	帆船「MAKANI OLU」クルーに対する船内案内	14名	25名
	KANEHUNAMOKU Voyaging Academyの訓練生に対する船内案内	26名	25名
④	航海カヌー「NAMAHOE」見学	1日目:20名 2日目:20名	—

帆船「MAKANI OLU」と KANEHUNAMOKU Voyaging Academy のメンバーに対する船内案内では、それぞれ25名の方が見学に訪れ、延べ40名の実習生が対応した。また、「NAMAHOE」の見学及びメンバーとの交流に参加した実習生は、2日間で40名であった。

工学会 2010年7月

5. おわりに

今回実施した交流活動は、実習生にとって非常に有意義なものであったと思料する。それは、プログラム終了後に実施したアンケートや感想文からも明らかである。

外地におけるイベントや交流活動には、様々な準備や調整が必要となる。しかし、実習生の英語に対する意識や能力の向上等、教育効果は高く、資質訓練上も良い影響を与えていることは事実である。

今後もこのような交流を継続していくことで、国際性の醸成や、人と人との繋がりが深まっていくことに期待したい。

参 考 文 献

- 1) VAKA MOANA : K.R.HOWE
- 2) ポリネシア伝統航海と連携した新しい海事教育プログラムの構築 Designing New Maritime Education Program in Collaboration with Polynesian Traditional Navigation : 奥知樹 宮地功、日本教育